

42 ■市街地に残るアシ原は渡り鳥のオアシス

あくた 悪田自然緑地 (柏崎市)

■環境：湿地
 ■対象：一般
 ■期間：3月～11月

悪田自然緑地は小さなアシ原だが、多くの野鳥が利用している。春のカモ、初夏のウグイス類の渡り、夏のツバメのねぐら、秋のホオジロ類の渡りなどだ。他にも標識調査でしか会えない鳥がたくさん渡るが、人目に触れることは少ない。

柏崎市を流れる鯖石川河口左岸に、柏崎自然環境浄化センター（下水道終末処理場）がある。その入り口に駐車し、門の案内板の注意を守って左の道を進むと、小さなアシ原が見える。そこが悪田自然緑地だ。入り口にトイレと観察小屋がある。アカシアの小道を少し行くことができるが、アシ原の中は野鳥の保護のため立ち入り禁止である。

1965年から毎年渡り鳥の標識調査が行われ、環境庁の2級鳥類観測ステーションに指定されている。

近年ようやく湿地保護の機運が高まってきたが、まだまだ小さな湿地にまでは関心が及ばない。しかし1979年、すでに柏崎市は全国にさきがけ、渡り鳥のためにこのアシ原を自然公園として保護している。1997年、駐車場

や観察道を臨海工業団地に新しく整備中だ。

<春はカモ類の休憩場>

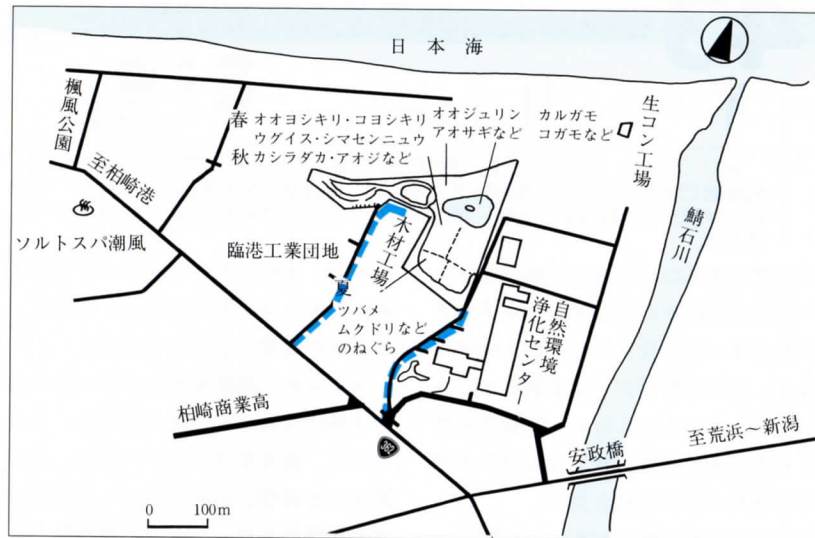
雪が解け水面が現れるころからカモ類の休憩場となる。主にカルガモ、コガモなどの水面でエサをとるタイプのカモ類だが、潜水してエサを捕るタイプのカモも少数入る。タシギ、キジ、オオジュリン、アオサギなども近くで観察される。

<初夏のウグイス科鳥類の渡り>

新緑のころ、アシの背が腰ほどの高さになると、オオヨシキリが渡ってき



悪田自然緑地のアシ原



て、ここで繁殖する。キショウブやハマナスの花が咲くころには、コヨシキリやシマセンニュウがアシ原の中を渡って行く。

<夏はツバメのねぐら>

6月下旬からアシ原はツバメのねぐらとなる。年によって違うが、ピーク時には3000～6000羽になる。日が暮れて、あたりが暗くなるころにねぐら入りするので人目につかない。スズメ、ムクドリ等も一緒にねぐらに入っている。

<秋の小鳥類の渡りは感激>

10月中旬から下旬にかけて、よく晴れた日の早朝が面白い。上空を見ると、次から次から小鳥の群れが渡って行く。目がよくないと見逃してしまいそうだ。主にカシラダカ、アオジ、オオジュリ

ン等である。ピークの日にはその数、数万羽となる。アシ原の中にも鳥が多く、ちょうどそのころ標識調査も行われている。(小林成光)

メモ

交通 JR柏崎駅から徒歩35分。安政町の柏崎自然浄化センター。
 ㊦ 自然浄化センター前。
 臨海工業団地の奥に新しい駐車場が計画されている。
探鳥会 探鳥会はないが、渡り鳥の標識調査が毎年秋に実施されていて、春や夏にも実施されることがある。
 問い合わせ先：小林成光
 ☎0257-23-9063
道草 近くにソルトスパ潮風という温泉がある。また柏崎刈羽原子力発電所のサービスホールも車で近い。